

## 令和 5 年度流山市地域公共交通活性化協議会第 2 回会議

【日時】 2023 年 7 月 25 日（火） 13：30 ～ 16：30

【場所】 流山市 生涯学習センター（流山エルズ） 多目的ホール

【資料】

資料 1： 会議次第

資料 2： 出席者一覧

資料 3： 会議資料（議題 1～8）

藤井会長（日本大学）

会議に先立ち、会議成立を事務局に確認する。

事務局

本日、出席が 21 名。web 出席が 4 名。代理出席 2 名の計 27 名が出席となっている。また、欠席委員 2 名からは、権限を会長に委任することの報告をもらっている。よって会議が成立していることを報告する。

藤井会長（日本大学）

それでは本日、傍聴の希望者出ているが、傍聴可として進めてよいか。

【異論無し】 傍聴者入室

それでは早速だが、これから概ね 2 時間程度で進めて参りたいと思う。本日まで出席いただいている、事務局の紹介をお願いしたい。

事務局

（事務局長より、事務局員の紹介を行った。）

藤井会長（日本大学）

それでは議題の１番目、流山市地域公共交通活性化協議会の委員の変更について（報告）を、事務局より説明願う。

<議題１ 流山市地域公共交通活性化協議会の委員の変更について（報告）>

事務局

東武バスセントラル株式会社が小林委員に変更になり、本日は代理で古氏が出席している。

<議題２ 流山ぐりんバス運賃改定案に係るパブリックコメントの意見と市の考えと運賃改定案について（協議）（議決事項）>

事務局

（議題２の資料を説明）

志賀委員（流山市観光協会）

意見が少ないが、他の案件と比べて規模感はどうであるか。

事務局

多くはないが数件しか集まらない事例もあるため、少なくとも規模感である。件数は市民の問題意識も関係している。

三浦委員（京成バス）

パブリックコメント後も方針が変わらないことは理解した。調整が必要な事項も多いため実施時期については相談したい。

坂巻委員（流山商工会議所）

パブリックコメントの結果とアンケートの結果で異なる部分があるのはなぜか。

事務局

市民に対しての聞き方が異なっている。パブリックコメントだと記述だが、アンケートだと基本的に選択式で回答しやすいのかもしれない。

#### 古姓氏（東武バスセントラル）

今回の協議会では運賃やスケジュールなど、どの事項まで議決をとるのか。詳細内容が分かっていないのに即決してしまってよいのか。検討する時間をとることも必要である。

#### 事務局

本日の議決事項は運賃である。運賃については今までの協議会で時間をかけて検討してきたため議決事項としたい。

#### 中嶋委員（松戸新京成バス）

資料1には停留所一つ一つの料金設定がされていない。また、運賃の境目をどうするかなど細かいところが盛り込まれていない。

#### 事務局

停留所一つ一つの料金設定とは、俗に言う三角運賃表のことだと理解するが、それはパブリックコメント実施の際に資料として出している。

#### 早川委員（流山市福祉協議会）

パブリックコメントの具体的な記載内容についてや、40件の「その他要望」の内容や、アンケート回答者の属性についても知りたい。

#### 事務局

具体的な意見としては、「運賃改定は妥当な処置だと思う、ぐりーんバスがなくなっているのは困る」、「運賃の値上げ幅を下げしてほしい」、「値上げラッシュの中、運賃の値上げはやめてほしい」、「ぐりーんバスの新規ルート of の要望」、「高齢者割引はありがたいが廃止してはどうか」、「障害者・妊婦の方の運賃はそのままにしてほしい」、「上限額を300円とするのはどうか」などがあった。

また、アンケート回答者の属性については、全353名のうち319名が市内の方、178名が40代～60代で一番多かった。週一日未満の利用が249名で一番多かった。利用目的はおでかけ・観光が88名、買い物が64名であった。

細山委員（流山地区タクシー運営委員会）

運賃の改定で重要な目的として、民間バス路線との運賃格差解消もあるのにパブリックコメントの回答の際の説明として抜けている。

事務局

意見を踏まえて、市の考え方について検討したい。

藤井会長（日本大学）

それでは議決事項なので、スケジュールについては再協議として、運賃改定案について賛成の方は挙手願う。

【権限委任を含め、賛成が 29 名】

事務局

協議会規則第 7 条第 4 項により、全委員の 4 分の 3 以上の賛成で決することとなるので、全委員 29 人ですので、4 分の 3 である 20 人以上の賛成で可決となることから、可決された。

<議題3 高齢者運転免許証自主返納助成制度について（協議）（議決事項）>

事務局

（議題3の資料を説明）

細山委員（流山地区タクシー運営委員会）

運用方法の③の身分証明書の提示では何を確認すればよいのか。

事務局

タクシー助成券に記載された名前と身分証明書で本人確認ができればと思う。

細山委員（流山地区タクシー運営委員会）

タクシー助成券には名前も印刷されるのか。

事務局

市の方でタクシー助成券に名前を記入する予定である。

細山委員（流山地区タクシー運営委員会）

トラブルの原因となるため、タクシー助成券を使用するには身分証明書で本人確認が必要であるということも記載してほしい。

鈴木委員（流山地区タクシー運営委員会（富士タクシー））

名前を記入することはプライバシー的に問題ないのか。福祉タクシーではプライバシーに配慮して名前を載せていない。また、顔写真を見せるのに抵抗がある方もいるので、本人確認が必要なことを明示してほしい。

事務局

プライバシーに関して問題ないか確認する。身分証明の提示については、助成券に明記したい。助成券への記名を無くした場合は、身分証明の提示は、運転経歴証明書の提示に限定する可能性もある。

三浦委員（京成バス）

見本を展開してほしい。また、実施時期も協議で確定させるのか。

事務局

見本は事前に確認いただきたい。実施時期は議決事項ではないが、できれば2023年の11月に実施したいと考えている。

成田委員（千葉県バス協会）

何人程度の発行を見込んでいるのか。また予算は既に確保しているのか、今後補正していくのか。

事務局

事業費は550万円を見込んでいる。前年度の免許返納者は約340名だったので、5年間さかのぼる場合、1700名が対象者になり得る。11月から開始した場合、そのうち25%を想定すると、550万円で収まると考えている。

米澤委員（公募）

こちらの制度は1年限りなのか。

事務局

毎年度実施するが、対象者1人につき1回限りである。

古姓氏（東武バスセントラル）

購入は本人に限られているのか。また窓口対応はどこの営業所まで対応すればよいのか改めて確認したい。収入の計上の扱いについて、事業所と流山市のお金のやり取りの時期はいつか。

事務局

購入は本人に限る。また窓口対応については今後検討する。事業所には月締めで入金する予定であるが検討する。

志賀委員（流山市観光協会）

路線バスフリーパスは年間で使用できるのか、また複数のバス事業者で使用できるのか。

事務局

民間バス事業者のフリーパスの購入費を助成するため、バス事業者によって異なる。

藤井会長（日本大学）

それではさらに運用の仕方などは事務局で再検討していただくが、制度そのものについて、賛成の方は挙手願う。

【権限委任を含め、賛成が 29 名】

#### 事務局

協議会規則第 7 条第 4 項により、全委員の 4 分の 3 以上の賛成で決することとなるので、全委員 29 人です。4 分の 3 である 20 人以上の賛成で可決となることから、可決された。

#### <議題 4 公共交通の維持（民間事業者への補助）について（協議）>

#### 事務局

（議題 4 の資料を説明）

#### 三浦委員（京成バス）

流 0 1、流 0 2 路線について、開設してから 1 回も黒字になっておらず、累積赤字となっている。運転手を 2 名から 1 名ずつにし、朝と夕方だけの運行にして省力化を図った。それでも収支が厳しいということで、本年の 1 月からは、休日は運行取り止め、平日のみで主に通勤目的利用の運行をしている。しかし通勤ラッシュ時でも（乗車定員の）半分も埋まらないという厳しい状態であり、廃止を申し出た次第である。

#### 細山委員（流山地区タクシー運営委員会）

特に流 0 2 路線はぐりーんバスと重複していない停留所が 1 つしかないのが問題である。ぐりーんバスは 30 分に一本なので本数の利便性に関しても上回ることができなかった。ぐりーんバスの影響をみるためにも流 0 1 路線と流 0 2 路線の需要の差がどの程度あったのか教えてほしい。

#### 三浦委員（京成バス）

ほぼ変わらない。ぐりーんバスがなければよかったかもしれないが、利用者は極めて少ないということである。

#### 細山委員（流山地区タクシー運営委員会）

それでは、バスを継続することだけでなく、もともと必要な路線なのかということも新たに検討しなければいけない。

鈴木委員（流山地区タクシー運営委員会（富士タクシー））

開設当初から赤字であったので、ぐりーんバスが重複すると、利益が出るわけがない。市がどこまで赤字補填をするのか。今後他の事業者でも同様のことも考えられるし、極端にいうと赤字路線を開設すれば赤字補填をしてもらえてしまうのではないか。このようなことに税金を使うことは法律的には問題ないのか。

事務局

この路線が廃止されると公共交通検討地域が発生するという結果が出たため、サービス維持をすると判断をした。法律的に問題ないかを含め、税金の使い方については精査する。

鈴木委員（流山地区タクシー運営委員会（富士タクシー））

三浦委員がラッシュ時でも半分しか席が埋まらなとおっしゃっていたが、そうになると公共交通検討地域とは何か。また、精査はどのようにするのか。決算書をみたとしても精査できることではないのではないのか。赤字を事業者の言い値とするのであれば問題ではないか。

事務局

計画書の P4 に公共交通検討地域の考えかたを載せている。人口がある程度多い地域で、公共交通の移動がしにくい地域ということである。

補助額の精査は制度設計を皆様と協議しながら、適切な形での運用をしたい。

藤井会長（日本大学）

期限が決まっているので、事務局で早急な検討が必要である。また具体的な制度設計が見えていないので整理してほしい。

成田委員（千葉県バス協会）

千葉県バス対策地域協議会へ 1 年前に申し出るルールがあるが、12 月に申し出があった

のか。また地域を跨ぐ路線の赤字の補填額については、キロあたりの単価で国と県で補助制度がある。今回は流山市で完結する路線なので直接関係ないが、参考にして協議会でも議論できればと思う。「4. 補助の条件について」の③については本日を指しているのか。日付などを具体的に記載してほしい。また、補助等スケジュールについても代替手段の検討期間が長いと思われる。実際には3ヶ月程度準備期間が必要であるため、書面開催でもよいので早めに調整することをお願いしたい。

#### 志賀委員（流山市観光協会）

廃止されることにあたり、地域住民から意見があるか。

#### 事務局

まだ地域住民にお知らせしていない。この会議を踏まえてバス会社と協議してから周知したい。

#### 古姓氏（東武バスセントラル）

バスもタクシーも2024年4月に労働時間（上限）が短縮されることや、人口減少と免許取得者の減少も重なりドライバーが少ないため事業を縮小するしかない。他の自治体では補助金を出してバスの運行を維持している例はあるか。

#### 藤井会長（日本大学）

小湊鐵道バスは2024年問題を見越して100便減をした。このようなことが他の自治体にも同様に起こると思う。一方で市民からは便数の増加の要望がある。補助ありきの運用が今後はできなくなる可能性も現実にはある。地域公共交通計画を改定することも検討しないといけないのかもしれない。

他の自治体の事例ということだが、関わっている自治体の中で、会議での協議事項にあがっていたりはするが、実際に補助金を出した例はない。

#### 三浦委員（京成バス）

代替交通についてどのような検討をしていくのか。

#### 事務局

まずは需要に見合うように現状把握をしたい。住民との協議も含めて考えていきたい。

### 三浦委員（京成バス）

デマンドタクシーのうち、輸送ではなく地域の企業の PR で利益を上げているようなセンサーが入っているものには、公共交通の意識がなく、結果的に撤退して地域を荒らす結果となることもあるので注意が必要である。

### <議題5 地域組織の立ち上げがあった地域の公共交通の検討について（協議）>

### 事務局

（議題5の資料を説明）

### 八木南団地自治会オブザーバー

（議題5資料1の資料を説明）

千葉県内で25か所ほどデマンドタクシーをしているが、藤井会長が詳しいと思うので説明願う。

### 藤井会長（日本大学）

直近では柏市がデマンドタクシーを実施しているが、万能な交通手段ではないのは前提としてある。事例だと、ジャンボタクシーとハイヤーを組み合わせているところもある。買い物利用のために、週に1回タクシーが集会所に来て、予約不要で利用できる例もある。柏市では3ヶ月毎に、4社が交代して地域の足を担っている。地域の特性がそれぞれで全く異なるので需要をよく検討するべきである。

### 細山委員（流山地区タクシー運営委員会）

柏07路線を活用すべきなのではないか。柏07路線は交通不便地域を複数通っているため、八木南団地でデマンドタクシーを始めた場合、その影響で柏07路線が廃線になってしまうと他の地域にも影響があるのではないか。

### 八木南団地自治会オブザーバー

柏06、07路線は免許センター止まりで、流山市内へ向かう足がない。

### 古姓氏（東武バスセントラル）

現状についてお伝えする。柏 06 は柏駅西口から免許センターへ行く路線がメインだが、流山駅東口へ行く路線が 1 日 4 便ある。柏 07 路線は 1 日 1 便で、南柏駅から、流山セントラルパーク駅、流山駅を辿っている。利用実態を調査して、柏駅西口や免許センターの利用が多く、八木南団地の利用が少なかったことからルートを変更させていただいた。

藤井会長（日本大学）

ただいまご報告を受けたので、最近の動向も考慮しながら事務局で住民の方のニーズと実態が合っているのか検討してほしい。

郡司委員（公募）

学校（流山高等学園）の先生や生徒も利用していることもあるので、事務局で丁寧に検討してほしい。

<議題 6 マタニティタクシー利用助成制度について（報告）>

事務局

現時点で 40 件ほど申請があった。ご利用いただけるタクシー事業者について、グループ会社から配車される可能性があるため追記している。また、利用助成制度でアンケートを開始し、10 件中 8 件で本制度があったからタクシーを利用した・回数を増やしたとの回答があった。

<議題 7 令和 4 年度流山ぐりーんバス事業報告及び美田・駒木台ルートについて（報告）>

事務局

（議題 7 の資料を説明）

藤井会長（日本大学）

ぐりーんバスの運用で収支率が 50%を下回っている路線についてどのように改善するかということである。第 3 回の協議会で具体的に提示して検討したいということだ。

鈴木委員（流山地区タクシー運営委員会（富士タクシー））

本会議の中でも路線バスの廃線等の話がでているが、路線バスやタクシー事業者などの

維持に重点を置くのであれば、ぐりーんバスの廃止などを早めに決めるべきなのではないか。

藤井会長（日本大学）

以前からぐりーんバスの位置づけについて、収支率が高ければ民間への移行も検討できるのではないかとお話しさせていただいている。また、地域の移動ニーズを担保するために、民間事業者とリンクさせて、次の改善に向けて検討できるように事務局は意見を受け止めてほしい。

<議題8 令和5年度に実施する事業について（報告）>

事務局

アンダーラインが引いてあるところが前回の協議会から変更した箇所であるが、本日の議題の中で説明をした内容である。

志賀委員（流山市観光協会）

施策番号4の①観光・商工関連団体と交通事業者の連携強化とあるが、10月に花火大会がある際、流鉄やJRは関わっているが、渋滞が起こってしまうので、事務局の方からバスやタクシー事業者にも情報提供をしてほしい。

<その他（連絡・報告事項）>

三浦委員（京成バス）

2024年4月からの自動車運転者の労働時間等の改善のための基準による影響で、路線バス・ぐりーんバスにかかわらず、減便の可能性がある。

以上